

火災報知器型カメラを教室に設置。生徒たちの着替えを撮影

「どうやら 2 年 4 組で、いじめがあるのは確実なようです」

「しかも、担任の岡下先生がいじめに加担しているようなんですよ」

「これは、どうしたものでしょうか。それが本当なら、岡下先生に事情を聞くことはばかれますね」

A 県 K 市立第 1 中学校の校長室に 3 人が集まっていた。

集まっていたのは校長先生と教頭先生、それと 2 年の学年主任の先生だった。

全員が男性のベテラン教師で、校長と教頭は 50 代後半、学年主任は 50 代前半だ。

そんな 3 人が校長室に集まって話していたのは、2 年 4 組のいじめについてだった。

2 年 4 組で、いじめがあるという情報が、生徒から寄せられていた。

1 人の男子生徒がターゲットとなっているようだ。

そのいじめに 2 年 4 組の担任教師である岡下先生も加担している、もっというと、焚きつけているという情報が寄せられていたのだ。

2 年 4 組の岡下先生は、まだ 20 代中盤の女の先生で、2 年 4 組のクラスの中の 1 軍女子グループと一緒にあって、ダサい男子をイジっ

ているらしい。

その中で一番ダサい男子がイジリとは言えないほどに悪口を言われたり、物を隠されたり、暴力を受けたりと、かなり激しいいじめに遭っているようだった。

でも、それはあくまで、2年4組の生徒からの情報であって、3人の学校の管理職の教師は実際のところを全く把握できていなかった。

「校長先生、どうしましょうか」

「うーん、そうだなあ。教頭先生はどうするのがいいと思いますか？」

「そうですねえ。多少問題はあるかもしれないのですが、教室の中にカメラを設置するというのはどうでしょうか」

「カメラですか」

「はい、そうです」

「でも、カメラがあると、生徒たちや岡下先生はその男子生徒をいじめたりはしないんじゃないでしょうか」

「いえ、カメラだとわからないカメラを設置するんです。カメラを設置して抑止するのではなくて、バレないようにカメラを設置します。それで、いじめの証拠をつかみます。そうですねえ、例えば火災報知器型のカメラとか」

「そんなものがあるんですか、教頭先生」

「はい、最近、教師の盗撮の事件が多いじゃないですか。それで調べたんですよ。そういうものがあるらしいです」

「見た目は完全に火災報知器のやつですよ。ね。」

それだと絶対にバレないですね」

「でも、それだと完全に盗撮になっちゃう。問題が出てくることはないでしょうか」

「そうですね。正直問題はあると思います」

「生徒や教師にわからないようにカメラを設置するということですよんねえ」

「はい、問題がないということはないです。でも、それよりも大事なことはいじめられている男子生徒を救うことだと思います。もし、その男子生徒がいじめを苦に誤った選択を今にもしてしまう可能性だってあるわけです。それこそ一番最悪の事態です。それを防ぐためには多少の犠牲や、多少の倫理的な問題には目をつぶらないといけないこともあると思うんです」

「うーーん」

校長室での話し合いの末、2年4組の教室にカメラを設置することが決まった。

2年4組の教室の上には、火災報知機が付いている。

これはすべての教室に付けられているものだ。その火災報知機を外して、カメラ機能が備わった火災報知機を設置することとなった。

このカメラ機能が備わった火災報知器は、本来の用途である、火災を感知することもできるという優れモノだった。

「本来の火災感知でも問題なく使えるのであれば、一石二鳥ですね校長先生」

「そうだねえ、教頭先生」

学校が休みの土曜日に業者が呼ばれて、設置作業が行われた。

業者の手配や、予算の計上は、3 人の管理職の教員のみで、秘密裏に進められたため、他の教員は全く知らなかった。

設置の工事が完了した。

見た目としては全く変わっていなかった。

今までと同じ火災報知器が付いているようにしか見えない。

その次の月曜日からカメラでの撮影が始まり、そのすべての映像を 3 人でチェックすることとなった。

「それで、校長先生。大事なことというか、少し忘れていたこととしまして、教室にカメラを設置するということは、体育の前の着替えの映像も撮れてしまうということになりました」

「そうだよね」

2 年 4 組は 2 年 3 組と 2 クラス合同で体育の授業を行っている。

2 年 4 組は 2 クラスの女子生徒の着替え場所となっている。

つまり、体育の授業前と授業後の時間、2 年 3 組と 2 年 4 組の女子生徒が 2 年 4 組の教室で着替えるのだ。

その着替えの映像も撮影されてしまうということだった。

「しかし、これは仕方ないよね教頭先生」

「そうですよね、校長先生」

「着替えの時間に何かいじめに関する話を話

しているかもしれませんが、その時間もしっかりと動画を見ないといけません」

「そうだよね、うん、そうしよう」

「これは私たち 3 人だけの秘密ですね」

「そうだね。ところで、体育の授業は週に 3 回だったかな。何曜日なんだい」

「火曜と木曜と、金曜ですね」

「じゃあ、お楽しみはまずは火曜日か」

「えっ、校長先生。それはどういう意味で」

「あっ、いやいや。なんでもない。でも君たちだってわかってるんだろう」

月曜日が終わった。

3 人は映像を各々家に持ち帰り、確認した。

真上から生徒たちを撮る映像なので、見えにくいところはあった。

でも、映像は思ったよりも鮮明で、音声もしっかりと聞き取れた。

カメラで撮るのなら、できるだけしっかりと鮮明に映像に残そうということになり、最新鋭のカメラを設置していたのだ。

月曜日の映像を確認すると、いじめの件に関しては、詳細が判明した。

やはり、いじめは 2 年 4 組の中で行われていた。

ほとんどクラスの全員が加害者だといってもいいような状態だった。

1 人の男子生徒のことを、多くの生徒がいじめていた。

そのいじめに、やはり 2 年 4 組担任の岡下も

加担しているようだった。
それは、それでしっかりと状況を整理したうえで、対応するという事になった。
でも、校長、教頭、学年主任にとっては、そんなことはどうでもよかった。
明日の火曜日は体育の授業がある。
2年4組は女子生徒の着替え場所となる。
女子中学生が生着替えを行うのだ。
それを堂々と上からくまなく撮影できる。
その映像を持ち帰り、何度でも見ることができる。
3人の心は胸躍っていた。

火曜日。
3人は映像を回収した。
そして、家に帰って、盗撮映像を確認した。
体育の授業前、2年4組の男子生徒がぞろぞろと教室から出ていく。
それと入れ替わるようにして、2年3組の女子が入ってきた。
いつもの日常の光景だ。
でも、その女子の着替え場所となる教室の中には、男性教師は絶対に立ち入ることはできない。
いつもの普通の教室が、体育の授業前後の時間だけ、女子だけの秘密の花園に変貌する。
その立ち入ることができない場所の禁断映像が、しっかりと収められていた。
40人近くの女子生徒がどんどん制服を脱いでいく。